

新京都市商業振興ビジョン（仮称）第2回策定委員会

日時：平成15年11月26日（水）午後2時～午後4時

場所：ぱるるプラザ京都 5階会議室B

1 開会

事務局（西川）新京都市商業振興ビジョン（仮称）の第1回策定委員会を7月8日に開催させていただいて、ちょうど4ヶ月がたちました。その間、部会あるいは個々の委員の皆さんにヒアリングを精力的にさせていただきまして、本日を迎えることになりました。

それでは、新京都市商業振興ビジョン（仮称）第2回策定委員会を開催いたしたいと思っております。事務局の西川です。よろしくお願いいたします。

本日の策定委員会の出欠状況でございますが、京都百貨店協会会長の大石委員から欠席のご連絡が入っておりまして、代理として京都百貨店協会事務局長の小西様にご出席いただいております。また、関係機関からご出席といたしまして、京都府から商工部観光商業課の久光企画主任様にご出席いただいております。

本日の資料でございますが、お手元の資料一覧と当日配布しました資料一覧、2つの資料一覧がとめてございますので、ご照合いただき過不足等ございましたら事務局の方までお申し出いただきますようお願いいたします。

それでは、この後の進行につきましては若林委員長にお任せいたしますので、よろしくお願いいたします。

2 中間報告（案）の検討

若林委員長 4ヶ月前に第1回の策定委員会を開いた時に、第2回の策定委員会には何らかの骨子あるいは中間報告を提出させていただいて、それをたたき台にご検討いただき、最終報告にということでした。

これまで策定委員一人一人へのヒアリングや、あるいは合計8回議論してきたワーキング部会・都心部部会を通じて、また学識の委員の方々にはそれぞれ研究の実績があり、それについてのレポートを出していただく等々の取り組みを通じて、本日、22頁ほどある中間報告の案をまとめるにいたりしました。

今日は、中間報告を提案させていただいて、ご意見を何うことを中心に進めさせていただけたらと思います。また、最後にこのビジョン策定のプログラムの一環として大学コンソーシアム京都を通じて、大学の研究室で商業の振興等に関する調査研究のプロジェクト『京都商業の未来像に関する調査研究』を進めていただいております。その進捗状況についても報告がございます。

まず、今日の当日資料の2を見ていただきたいのですが、これはこれまでの取り組み経過ということで、先ほど申し上げましたように、部会、策定委員の皆様方へのヒアリングの経過がまとめられております。

また、当日資料の3を見ていただきたいのですが、11月19日にワーキング部会、11月17日に都心部部会を開催させていただき、中間報告（案）を提案させていただいて意見交換しておりますが、そのときに出た主な意見をここにまとめています。まだ摘録が完成していませんので、これを参考にしてこんな議論があったのかと、実際にいくつかの意見に

関しては今日の最終の中間報告（案）に反映させながら書き直したところもございますので、ご覧いただければと思っております。

今日は40～50分程度意見交換ができるかと思っておりますが、今日の議論の位置づけ、主旨は、あくまでも中間報告（案）についての議論です。今日初めて皆様方に発表することになりますので、ご感想・ご質問・ご意見等を率直にお伺いしたい、3月の最終報告に向けて調整・検討をしていく、特に行政の施策等についてさらに詰めていく作業をしていくことにしています。最終報告に向けてどんなふうに意見調整を進めて最終報告（案）をつくっていくかというスケジュールに関しては、今後詰めまして別途ご提案させていただくことになると思いますので、今日お気づきの点は率直にご発言いただきたいと思います。同時に個人あるいは皆様方の所属する団体・組織等で揉んでいただいてご意見をいただくという段取りになっていくのではないかとと思っておりますので、よろしく申し上げます。

2 中間報告（案）の検討

??（若林委員長による報告）??

??（事務局による報告）??

3 意見交換

若林委員長 以上で説明が終わりましたので、これからご意見ご感想をお出しいただいて、中間報告（案）の検討を進めてまいりたいと思います。お気づきの点、ご感想をお願いしたいと思います。時間のことをお聞きしておりますので、大橋委員からよろしく申し上げます。

大橋委員 今若林先生のおまとめになったお話は、全くもってその通りと思いますが、私の感じておりますことを申し上げますと、やはり商売をするというのは、昔は日本の伝統とか文化とかお祭り・催し・生活に応じて必要なものが求められるから商売人が来てきて必要に応じて商ってきた。

こないだも西陣が衰退したというお話をしてしまして、最近は結婚するとき仲人さんなしで結婚する人が増えた。昔は仲人さんをすると留め袖を買ってもらえた。ところが、今みたいになると留め袖の需要がない。ちょっとしたことのなかに、今までの日本のしきたりみたいなものがあつたのが商売につながっていたのではないかと思います。

商売というのは、寺の門前でも人が集まるので皆が食べたり買ったりする自然発生的なもの、このごろのように大型店が出店して大駐車場をつかって人工的に流れをこしらえていくというものがある。どちらがいい悪いというのではない。最近は夜中まで商売しようというのも出てきている。利用者がある、消費者の利便やということだが、それによって騒音公害とか人の安眠を妨害するという面もあるのではないかと申し上げますけれども、だんだん夜遅いのが当たり前になってきている。青少年の教育にもあまりいい影響を与えていないのではないかと思います。

それから、委員長が言われたように、行政がこしらえたものを自分の身に合わせて着というお仕着せから、このごろは太めの人には太めに細めの人には細めに身に合うたものを買う

ようになってくるのではないかなと思いますので、行政にもきめの細かい施策をお願いせんといかん。

西口委員がこの前新聞でおっしゃってました観光の話ですが、観光客五千万人集めよう、京都へ来い京都へ来いではあかん、来たってなにしとんねやということで、観光協会の幹部の人も見直さなあかんと思うていますと言っておられた。そんなもん市民生活も生活環境も破壊して迷惑千万やと。その地域の商売人はものがよう売れてええやるといって、そうやないと言う。配達が出来ひん外へも出られへん、子どもが学校へ行くのも迷惑する。そんな観光客の誘致はあかん。観光バスで5時間の予定で京都へきたけど渋滞で京都にいるのは3時間になった、この寺をみるのは1時間の予定だったが30分でバスが回ってくるので行ったらすぐ帰ってこい出てしまうさかいにと言われてしまう、それやったらなんにも京都の商業活動にプラスするものがあらへん、道路ばかり痛めてごみばかりまきちらかして、市も税金を使ってそのたくさんのごみを集めなあかん。

消費者とはそもそも何なのかという若林委員長がおっしゃった中の意見ですけれど、最近の商売の仕方を見ておりますと、私も食品の関係なので食品関係で言いますが、仮にどっかで食べるところがええと週刊誌やテレビで言うたらそこに猫も杓子も食べにいく。人には嗜好というものがあるはずなのに、そういうことはおかまいなしにみんなが並んでいるからそこにいくのや、というのは言葉が悪いが口でものを食べんと頭で食べている、みんなが並んでいるのを見て食べている。それが着るものでもいっしょやと思うんですよ。細くてカッコいい人が着てるものを全部が着るとか、ブランドものをみんな持つとか、自分のことを見ずに頭でものを考えてしまう。どうもそういう傾向がある。

先ほどの委員長のお話の中の、これも気づいておったんだが、東京とか大阪とかの平野ではどんどん広がれるが、それなりに昔は大都会やったが京都のまちは盆地やから広がりようがなくなってくる、それがためにドーナツ化現象がおきてくる。今は高齢化社会で老人の人が多くなって求められるものと、若い人が求められるものとはだいぶ違う。

もうすぐお正月が来ますが、お煮しめでも昔は近くの商店街で材料を買ってつくっていた。このごろは京都の台所は錦市場ということで、昔は玄人・料理屋さんしか行かなかったのに、京都全市の人が買いに行かなくてはならないようになっている。そういうところもどうも頭でしているようや。なんでもかんでも今は頭でして、ほんまのそのものを求めてないのと違うか。いろいろ皆さんのご意見もあると思うので、このへんにしておきます。

若林委員長 勿論皆さんのご意見もあるのですが、大橋委員のお話をお聞きしたので少しだけお聞きしたいことがあるのですが。例えば商工会議所などが御池シンボルロードの議論を通じて、御池通をシンボルロードにする際に、どういう商業を誘致できるかということでご努力を始めておられますね。京都の商業を活性化していくうえで商工会議所の役割もあらためて期待が大きいと思われませんが、そのあたりはいかがでしょうか。

大橋委員 今もおっしゃるように京都に昔からあった有名な旅館の横にマンションが出来る、景観やらまちづくり上、けしからんやないかということから、御池通りに大きなマンションが建っても、やはり京都のまちにあるのやから建ったマンションの1階は必ず店

舗を入れて店舗にしてくれとか、外装についても京都らしいものにしてくれということ提言してきています。最近路面電車の事で市の方に提案をして予算を割いていただいているようなこともございます。

それから先生の話にございました小倉百人一首の件だが、やはり東集中ではなくまんべんなく人が来てくれるようにということで、今日の新聞にも任天堂の山内さんが資金を出してくれると出ていた。もともと任天堂さんはカルタ屋さんだからいいかも知れんが。昔の人は子どもの頃からお正月には百人一首で遊んだが、今はそんな遊びしません。百人一首や言ってもわからない。こういうのも自分一人よがりてこういう碑を建てて皆を回らしたらいいというのは、どうもマスターベーション的にならんかと。やはりほんまに求められたり喜んでもらって出来るようなものでなければ。私が言って悪かったけど、先々あれをどんだけ理解しはる人がいるか。小さい子や若い人がゲームばかりやったら。ゲームの中に入れこんだら別ですけど。

若林委員長 どうもありがとうございました。次に伊藤委員いかがでしょう。

伊藤委員 私共は、地域の中でいわゆるまちづくりには一番商店街の皆さん方、小売業者の皆さん方が貢献していると思うんですね。例えば私共には江戸前期から中期にかけてのお宮さんがあり御輿があります。それを動かすためには150人のかき手を呼ばなきゃならない。そのための費用をどうするのかと言った場合には、商店街の皆様方の物資両面の協力とやっぱり労働奉仕というものがあって、この伝統文化を現在継承しています。これは欠かすことの出来ん事だと思います。

ほとんどの商店街はこういう取り組みをされていて問題ないと思うんですが、我々がいつもここで問題になるのは、商店街があれば地域には銀行があります。その銀行の駐車場を開放すると再三言うているんですが、なかなかそれには応じてくれない。そういうことで、この文書についても、企画書ではなくて企画推進書というような形でもう少し踏み込んだ中のタイトルが必要かなと思う。四条通りもそうなんですが、私共は証券会社とか銀行とか大きな企業の皆さん方に、日曜祭日土曜日に駐車場を開放して欲しいという話を再三申し入れしているんですが、未だにうんとは言わない。

最近せこい銀行が出来まして、休みに使うのならどうぞと、コインを入れて20分百円の駐車場を銀行がやりだしてきた。あんたんとこ地域になに還元しているんやという話をしたら、銀行も厳しいので休みでも稼がないと、という話になるんですが。本来ならこういう企業が全面的に商業者・商店街とも連携をしてもらおうというのが一番いいのではないだろうか。これはどうも行政の力を借りなければならないのかなという気がする。私共が個別に言うても、うちは本社があるとか上と相談しなという話になるんですが、実際上まで話がいったんかといえはほとんどいっていない。

もうひとつ大事な事は、いろんな商業振興について補助金を伴う商業振興は成功しません。皆さんが自腹を切ってやろうという意気込みがあるところは非常に振興します。こないだも実はハンガリー・ポーランド・チェコ・オーストリア・ドイツと行ってきたんですが、田舎の方でも商店街があります。それは全部自助努力でやった。そういうところほど皆さんが一生懸命やっておられ、自分のまちの中を活性化するんだという取組を見て、私共は感

動しました。わずか60万の人口のまち、また30万の人口のまち、15万の人口のまちでも、皆さんが自助努力し自己負担で町を動かしているという自負がありますから、こういうところは非常に成功している。行政からまた国からの補助金をもうてやるというと、もうひとつ皆さん方に活力が伴ってこないのではないだろうかという思いがします。

今回の内容を見ますといいことなのですが、私共はいまだに取り組んでいますけど周辺の企業の協力がもうひとつ得られないという壁にぶちあたっております。

もうひとつは、まちづくりに欠かすことの出来ないのは交通アクセスだと思います。この23日24日、2・3日前の話ですが非常に車が渋滞しました。この渋滞が積み重なったりしますと京都にくる観光客は激変します。私はバスで京都駅に行くんですが、バス停4つ目で京都駅に行くのに1時間かかったというのが現状なんです。連休の時、しかも清水さんや詩仙堂がライトアップした時とか、折角観光客がおいでになっても非常に渋滞したらかえってイメージが悪くなるんじゃないだろうかという思いがします。これは私共では手の届かない、行政の方々の仕事である。いわゆる補助金を出して商業振興するより、その環境整備を行政の方にきちっとしていただくことがこのまちづくりについては欠かすことの出来ない一番の問題ではないかなという思いが特にいたします。以上です。

若林委員長 ありがとうございます。次は商店街の方のご事情を踏まえて塚本委員お願いいたします。

塚本委員 商店連盟の塚本でございます。私は意見というより感じたことを申し上げたいと思います。若林委員長始め学識経験者の方々に8月の暑い最中から8回と都心部部会・ワーキング部会で精力的にまとめていただけた。短期間にようこれだけおまとめいただいたと感謝いたしているわけです。

読ましていただいて私が感じましたことを申しますと、振興ビジョンというのはあくまで報告書ではなくこれから始まるという意気込みを表した企画書だと受け止めてほしい、これに対し私共もこれから頑張るぞという気持ちを与えてもらった次第です。

それと10ページのところの『商業者組合の連合組織の役割』と書いていただいておりますが、これは商店連盟のことで受け止めております。私共は商店街で、商店街振興組合と申しますのはやはりまちづくりを推進する中核の組織であると再認識すべきではないか。大変問題は山積しているわけでございますけれど、これらを今後解決していくのはやはり人であると思っておりますし、まちづくりが商業振興に不可欠ということを認識しておりますし、人を育てていかなければいかんというように考えております。

今回提案していただきました中間報告(案)でございますけれど、私共商店連盟が懸念しております商店街振興の課題解決に向けての京都のめざす商業の姿と申しますか商業者の役割・商業施策の方向性として、私としましては高く評価できるものであると考えておりますし、また、商業者組合・連合組織の役割の重要性についての記述と申しますか、当連盟に対しましての評価というふうに考えまして、ご配慮に厚く御礼申し上げたいと存じておりますし、このビジョンの実現化に向けて今後組織をあげて取り組んでいきたいというふうに決意いたしております。

若林委員長 これは中間報告でありますので、商店連盟の中でも是非説明会とか開かせていただいて、さらに商業者の皆様方のご意見を聞く機会ができればと思いますので、よろしく願います。ありがとうございました。

伊藤委員 17ページに『商店看板コンテスト』とあるが、京都は景観規制がかかっていて特異な広告は出せないとなっています。この記述だと相反する内容になるのと違うのかなあという気がするんですがいかがでしょう。

事務局（西川） 確かにそういう規制等はあるわけなんですけど、その辺の関係課との協議も必要かなと思いつつも、一方で、例えば統一看板という考え方が商店街であれば同じ形がかかっていればそれが統一感を作りだすんやという前提に立っていましたが、これまでの議論の中でむしろ個々のお店の個性が大事なんで統一看板という一律に統一した形態が本当にいいのか議論もありまして、現行の枠の中でも工夫をすればこうした個性の出しが可能ではないかという思いもこのアイデアの中には入っていると思うんです。

若林委員長 それでは次に、宮井委員はいかがでしょう。

宮井委員 私は京都に住んでいるわけではないので、ピント外れなことを申し上げることになるかどうか、わからないんですが。お聞きしてしまして変わろうとしている中身が非常に伝わってきました。私は暮らし研究ということをやっているんですけども、人々の価値観ですとか暮らしが変化するなかで京都も変わっていかなくちゃいけないんだろうということがベースにあって、今後の方向性を模索しているという姿がありありと伝わってきました。

具体的な感想なんですが、会社内で「京都に行ってみたいと思うか」と、働いている30代40代の社員に聞いてみました。当然大阪の会社なので非常に身近な存在ではあるんですが、「もうあんまり行きたくない、行こうと思わない」と言うんですね。「学生の頃はよく遊びに行った。だけど社会人になって時間がないなかで、なぜか京都の方に足が向いていかない。」と言うんですね。よくよく考えてみますと我々の世代は子育て中という人もかなり多くて、子どもを連れて行くという場所がないのかもしれないなとふと思いました。もう少し年齢が上がって50代になるとまた行こうと思うかもしれませんが、どうも30代40代のこれから子どもを育てて仕事もバリバリという年代は足が向かないんじゃないかなと言う気がしました。

1番と2番になるんでしょうか。『歴史文化都市京都を発信する先導的商業』もやはりそういう人達が日本人の文化・癒しみたいなものを求めている部分がありますので、京都に行ったらなにか新しいものが発見できて自分にとってプラスになるなあという、京都にしかないものをつくっていただいて、かつ、その次の『働き暮らす人々』がやはり京都に住んでみたいなあと思わせるようなまちにさせていただけたらと思ひまして。そのひとつがやはり子育てかなと思うんですね。京都で子育てをすると子どもにとっても教育上非常にいいし、働く親にとっても非常に便利だというようなまちが私は理想的なんじゃないかなと思ひましたので、是非「変えるべきもの」と「変えないもの」と区別をして京都らしさを

出していただけたらなと思いました。

若林委員長 とても新鮮なご指摘ありがとうございます。確かに子どもを連れて東京ディズニーランドに行くとは言いますが、子どもを連れて金閣寺に行くとはあまり言わないような気がします。続きまして西脇委員いかがでしょうか。

西脇委員 今の言葉で子どもを育てる時に京都にいたくないというのについて、私も娯楽の面で京都は子どもが小さいときにどこに連れて行こうかなあとも思いました。京都にはあまりにも古い文化がありすぎて伝統的なものに安住しすぎているのではないかな、もう少し小さい子供達も喜ぶところがあったらいい。京都へ行ってもお年寄りはお年寄り、若い両親は子どもを連れてどっかへ行くというように出来たらいいなあと思います。子育てそのものは、京都は結構教育が充実しておりますし、こないだNHKで取り上げられたぐらい進んでいると思いますので、教育面ではいいと思います。

先ほどおっしゃってた交通アクセスについてですが、東京の嫁はお友達を誘うと必ず京都行きたいと言われ毎年のように京都に連れてきて案内しているが、ちょうどその時期は交通停滞するので地下鉄を使うようになり車は当てにならへんわと申しております。うちの前の七条通も停滞し、東や周辺はきっと大変だろうなと言っておりますので、交通アクセスがよくなれば思います。

観光のことだけでなく生活者としても個店は大事にしたいなと思います。地域に特に協力してもらえますし大事にはしていますので、個人のお店の方も大型店では真似のできないサービスをしていただけたらと思います。大型店のようになんでも置かなと思われるようですが個人の良さをを出していただければ皆も行きます。うちらへんのご近所でもそういうお店は結構はやっております。またおせちも自分の家庭でという家庭も沢山残っておりますので、遠いところへいかんとご近所で買い物をしております。私達の地域のものも家で薄味につくったらいいよと、健康面においてもいいというようなことを言っていきたいと思っております。

若林委員長 やっぱお孫さんが来られたら行くところには困るということなんですね。まあ商業振興という意味では広い話にはなりますが、そこは課題だということは新しい発見があったように思います。市民公募委員のお二人はいかがでしょうか。

栗原委員 この商業ビジョンについて市民公募委員として参加させていただいているんですが、そのなかで商業者へ直接インタビュー調査というのをやっていて、最近入れているひとつの項目としまして、京都を色でみてみると、という発想で京都は色にたとえるとどんな色ですか、というふうな質問をしています。これは学生に対しても行っているんですが、京都を色で表すとしたら様々な色が出てくることに気がつきました。例えば北海道だったら白とぱっと発想出来るんですが、京都だったら多い傾向はあるものの紫とか茶色とか金色であったりとかいろんな色が出てくる。それってやはり京都というまちが見る人によって違った色を発していると思えることが出来る。そういう意味で京都の魅力というのは人によって捉え方が違う。そうなってくると京都の情報発信というか、京都というも

のをみんなにアピールする仕方が沢山あるんだと。伝統とか文化とかを発信することによって人を魅力的に引きつけることが出来る、そういうふうにインタビュー調査を通じて最近感じています。

そういう意味でこの京都商業振興ビジョンを新しいものにするなかで、みんながいい意味でいろんな色を感じてもらえるようなビジョンを期待しています。

若林委員長 ありがとうございます。その点はおっしゃる通りで、そういう意味では歴史文化都市を発信するのも、それがなんであるかとあまり決めつけてしまうとつまらなくなるような、人それぞれ伝えたいメッセージがあっていいのかなというようなことなんだと思うのですが。引き続いて大島委員からもお願いします。

大島委員 先ほど12月下旬に中間報告について市民に公表されとうかがいましたが、公表の仕方をぜひ工夫していただきたいなと思います。と言いますのは、私たち市民公募委員は市民とのパイプになろうという気持ちで、委員会に参加しているんですけど、役割が果たし切れていない、市民の声が沢山ありますので、意見集約の方法については、いろんな人が興味を持つおもしろい方法でやっていただきたいなと思っております。ちなみに中間報告として公開されるのは一番後ろのアイデアフラッシュの部分も入るのでしょうか。

事務局（西川） 入れさせてもらう予定をしています。この本編ではなくて、こういうパンフレットのようなもう少し要約した、概要版のようなもので市民の皆様に見ていただくと思っています。

大島委員 中身についてですが、先日事務局にも意見を寄せさせていただいたんですが、今回のビジョンというのはまさに商業という視点からまちづくりを考えていくというような色合いがかなり濃いものになっていると思うんです。実際それは都心部あるいは京都でお商売をされていたり、暮らしている市民にとっては近い感覚ではあると思うんですが、絵に描いた餅に終わらないかなと心配しています。つまり商業振興ビジョンで果たしてどこまで景観のことがうたえるのか、どこまで地区計画がうたえるのか、どこまで観光についてうたえるのか、というところがあるのかなあと感じております。そのあたりの配慮についても、同時進行で行政の方で連携がとれるような仕組みについては是非検討していただきたいなと僭越ながら思っております。

若林委員長 大きな方向性として進めるビジョンのところでも摺り合わせが必要になってくるでしょうし、実際の施策ということになりますと、ますます摺り合わせが必要な部分があるので、とりあえず今回は広げるだけ広げているので、最終報告に向けて多少切りつめられるところもあるのかも知れません。そのあたりはとりあえず大いに議論しながら京都市の内部でも検討を進めていただいて最終報告に、という段取りになるだろうと思っております。ただ、ここに書いたことは全部やるんだというような形にしてしまいますとあまり何も書けなくなってしまいます。今回はアイデアということで施策をとりあげてい

ます。

今回興味深かったのは、商業振興を進めるうえでは商業者に対する施策も重要だけれども、結局地域環境を整備することが商業振興の一番大きなインパクトのある事業なんだということが、かなりいろんな方々のご意見で出された点でした。今日も伊藤委員からも西脇委員からも出されておりましたけれど、交通問題や他にも景観問題もございまして、今回はっきりしてきたことです。そういった点の配慮がこれまでの縦割りの商業振興の議論の中では抜け落ちていたので、そういった点にちゃんと視点を当てるとというのは、今回の中間報告(案)のユニークな新たな発展した面かなと思います。大石委員の代理で小西様、いかがでしょうか。

大石委員(代理小西) 非常に短時間にすばらしい内容でまとめていただきましてありがとうございます。先日も若林委員長に手前共のほうにお越しいただきまして、大石のほうにヒアリングをしていただきましたけれども、大人が安全で安心して楽しめるまちづくりが不可欠ということで、大石もご意見を申し上げているかと思えます。一方、都心部会で何回か会をもたれているなかでどういう意見が出ているのかちょっと十二分に把握できていないのですが。また、手前共の団体は任意団体ということなんで、百貨店協会としての意見というのは残念ながら今日は持ち合わせておりません。しかし、手前共が四条河原町に位置しております関係で、今申し上げております安全で安心して楽しめるまちづくりという部分でいきますと、先ほどからずっと出ております交通問題というのは避けて通れないという現状かなと思います。

『歩いて買って食べて遊んで安心して楽しめる美しい京都の商業空間』というめざす商業の姿に対して、大規模店舗も配慮しなさい、あるいは商業集積に一翼の担い手という意識を持って、という記載をしていただいております。

私は総務の担当をしております、特に河原町通りの渋滞に関しましては、お客様なりからクレームをいただきます。地方から観光で来られて知らぬままに河原町を上がってこられて手前共のガードマンとトラブル等々起こっていますし、いろいろ電話でクレームも頂戴しています。あれだけの都心にあれだけの規模の駐車場が本当に必要だったのかなという気もいたします。

冒頭、伊藤委員の方からこのへんの銀行さんの駐車場を開放していただくとかという部分も含めて、交通問題の解決に向けて、このビジョンを策定するうんぬん以前の、早い段階での対応を行政に早急をお願いしたい。

バスに関しましても、河原町通りを行き来するバスは系統も減ってますし、どうしてもダンゴになってきます。私も京都駅まで通勤していますが。はっきり申し上げて年間数千万の観光客をお迎えしている京都の繁華街・都心として交通渋滞あるいはバスの渋滞はお恥ずかしい気がいたします。駐輪に関しても丁度タクシー乗り場の辺にもどんどん放置自転車が増えていまして、タクシーに乗られるお客様に対しても本当に不快感を与えているんじゃないかなと思います。こんな状況が続いております。先日も四条通を河原町から烏丸まで歩きましたけれども、バスに乗っているよりも歩いたほうが早い現状なんで、交通インフラの整備に関しましては、早急なメスを入れていただきたいなあと思います。例えば四条河原町の交差点をスクランブル化する等で、四条通は混むんですけども左折がス

ムーズに流れていく。あるいは以前やっていた河原町通りから上がってきて四條以北のマイカーの侵入禁止などもあります。都心の活性化という部分で、交通渋滞という部分に関しましては、このビジョン策定うんぬん以前の早急の対応として、是非お願いしたい。百貨店協会の代表の意見ではないのですけれども、よろしくをお願いします。

若林委員長 今ご指摘の点は最終報告に向けて都心部部会での検討を元に取り扱っていきたいと思います。ご指摘ありがとうございました。

あと学識の方お二人にご意見をお伺いします。新山委員のご指摘、食文化について書きなさいと言われた点については、とりあえずここに入れておけばいいのかなという感じで入れさせていただきましたが、今日改めて全体の会議ということでご感想をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

新山委員 部会の方にも十分参加が出来なかったんですけれども、とにかく意見を言わせていただいて盛り込んでいただいたということですが、今日全体にはならないかもわかりませんが、私は冒頭で大橋委員がおっしゃった意見が非常に記憶に残っていますので、それに関連して2つ申し上げたいと思います。

京都はいうまでもないことですが、観光都市で、中間報告でも冒頭にきていますが、これは京都の観光都市としてのあり方というのは観光のためにつくられてきたものでは決してないと思うんですね。季節折々の暮らしが特に京都にははっきりあって、それにさまざまなものが用立てられてきて、その用立てられたものが観光資源になってきたということだったんじゃないかと思うんです。だからこそ非常にユニークで他に代え難い観光都市になったんじゃないかと思います。

それでその暮らしということですが、暮らしをいついつの時期がいいからといってその時期にすっかりもどしてしまうわけにはいきませんし、これは現代に合った京都の暮らしである必要がありますけれども、やはり今もう一度暮らしを見直すことが必要なのではないかと私は思います。そして暮らしと結びついた堅実な商業をつくるということが、これが本来の京都の魅力になるのではないかと思います。蓄積された観光資源を基に観光サービスを提供していだけになりますと、これはいつか枯渇してしまうと思います。やはり生み出されるものは暮らしと結びついたもの、なのではないか。商業ビジョンですけれども、商業というのは暮らしに結びついたものであって、それをベースに観光も行われるということで、商業ビジョンではありますけれども、そこから暮らしの見直しというものを問題提起していく、そういうことが必要なのではないかなというふうに思えてきました。

これからこの中間報告(案)をどのように発展させるかという点で、そういう点をもっと掘り下げて行けないか、ということがひとつです。特に暮らしの見直し、これもいろんな暮らしのスタイルがあって、こうでないといけないと決めつけられないと思うんですけれども、今なんでも手に入るようになった時代の贅沢はなにかというと、これは『手間のかかること』だというふうにも言われたりします。『手間のかかる暮らし』というのは京都が大事にしてきた暮らしのあり方ではないかと思います。

それからもうひとつのことは、これは部会でも申しましたが、中間報告(案)は全体が商業というひとつの言葉でずっと通されているんですけれども、その商業の中身、京都の

商業の特徴はなにか、そこをクローズアップするというか、もうちょっとイメージアップ出来ないかということ、今日も改めて思いました。

京都の商業の特徴というのはいくつもあると思うんですけれども、例えば私は食や農業が研究領域ですのでそこから言いますと、報告書の中にも書かれています製造小売というのが京都の大きな一つの特徴であろうと思います。この製造小売は食の関係でよく使うのは『手づくり』なんですね。京都の製造小売というのは単なる『手づくり』ではないなと思います。それはやはり有り体の言葉になりますけれども歴史と伝統と技がある、それもただ古いわけではないと思います。

そういう商業の中心核になるものをもう少し引き出していけないかということです。なぜそれが必要かということなんです。お商売やっている方はそんなもん引き出してもらわなくてもちゃんと守っているんだということになると思うんですが、引き出すことの大事さということ、もう一度市民の暮らしの中にその価値を取り戻してもらうことにあるんじゃないかと思うんです。先ほど最初に言った『暮らしの見直し』につながる場所にあるんじゃないかと思います。

また、引き出さなくてもあるというのはどういう部分かという、今ではかなり隠れたという言葉がかぶさる場合もありますけれども、有名店だけになってきているように思います。最初に大橋委員がおっしゃったように、各地域に商店街があったわけですが、それが今維持がなかなか難しい状態になっている。京都の中心部分にある伝統的な暮らしを大事にしてきておられる方々がおられる一方、もうちょっと周辺部分にある、私などが暮らしているような領域で、暮らし方を少し忘れてきたようなところがあります。そういう一般市民が暮らしぶりをとりもどすためには、京都が大事にして育んできた京都の商業の特長、そこでつくりだしてきたものはなにか、それをクローズアップすることによってお互いにコミュニケーションを図り、市民も暮らしを見直し、商業者もなにをなすべきか、なにが自分達の優位なものであって大事にしてきたものであるのかを、お互いに見直しあっていくようなことが必要なのではないかなと感じました。なかなかまとまらないんですけれども、ひとまず今のようなご意見を申し上げたいと思います。

若林委員長 最初の大橋委員のご発言、あるいは以前に西脇委員のお話で聞いたのも覚えてますし、新山委員の今の話を含めて京都市の商業振興を議論するときこういう議論ができて私は嬉しく思っています。

本来歴史文化都市京都と普段着の暮らしというのはつながっていてひとつだったんだけど、今はつながっているという京都市民は何パーセントいるんだろうかなという状況がございます。したがって、そこは両論併記という書き方をしています。市民・観光客も成熟した文化をという視点を入れたり年中行事というのを入れたり、あるいは逆に普段着の方でも『市民が自ら暮らしを豊かに楽しむようになれば、それが逆に全国・世界に向けて住みたいまち、来たいまちになるだろう』ということで一番と二番目のビジョンが響き合うようになればと思います。私の代わりに西口委員がまとめていただけるんじゃないかということ、期待して、よろしくをお願いします。

西口委員 今、若林委員長がおっしゃった通りだと思います。新山委員がおっしゃった

ように京都はものづくり都市と言っているんですね。京都はものづくり都市とキャンペーンしているわけですが、商業はものすごく大きい、市民プラス四千万を超える観光客を相手にしている商業なんですけれども。

私は商業は双方向だと思うんですね。お客さんと毎日接しているわけですから、ユーザーの気持ちもものすごくわかる。大橋さんがおっしゃったように一番双方向だ。製造業は双方向ではなく一方的にものをつくっている。しかも、若林委員長もこないだ新聞に書いておられたと思いますが、いわゆる消費者とつくっているところの間に色々複雑な回路があってなかなかユーザーの情報が作り手に入らない。昔は私のつくった着物はどんな人が着ているのだろうというのはロマンであったわけなんですけど、結果的にはそれがネックになってきているんです。商業はものすごくいいところをもっている。

テレビももうじき双方向になりますし、いろんなメディアが双方向になってくると、私は小売商業というのはますます厳しくなるのではないかと思います。しかも情報を共有化するとなると、どうしてもスケールメリットというか大手のほうが強くなるような傾向になるんで、一人一人の小売業者の方々、個々の個店がいかにその特性を生かして頑張られるかというのが、私はポイントかなと思っております。

あとひとつはこういうなかでいろんな提言がありまして、特に12ページの中で商店街・商業者グループのハード・ソフト・情報化などの共同事業の基盤を広げうんぬんという部分がありますけれども、まさに双方向が本来特長であるのになかなかそれを生かすきれないとしたら、それを生かすような新しいビジネスが出てくるのではないかなあ。これは触媒のような形、NPOということで出来るのではないかな。部会でもちょっとお話が出たんですけども、既存の広告代理店、大手はとて相手になってくれないけれども地元の小さなエージェントが相手をしてくれる、むしろ学者さんが中心となるようなNPOというような形で今いろんな実験がされています。それは多分ビジネス化するのではないかな。それも企画書の中に期待感を含めてのせて文字化していただけたらと思います。

若林委員長 もうひとつ私の代わりにまとめのご発言をしていただけたらということで、島田委員お願いします。

島田委員 この中間案につきましてワーキング部会・都心部部会の委員会の皆様には個別ヒアリングをいただきまして、若林委員長にご苦勞をおかけしまして、本当にありがとうございました。今後わかりやすいダイジェスト版の原案をつくりまして、それでパブリックコメント的なものをお願いして、2・3月に最終的にまとめたいと思います。

私自身今のご議論をお聞きしてまして、商業でもそうでございますけれども、観光客のことを考えますと、観光客が訪れて良いところは住んでいる市民にとっても住みよいまちということは、いろんな部分で基本的なことかなあと思っております。京都市総体として例えばハード部局を始めいろいろとあるわけですがそこらへんと無縁ではなくて、このアイデア・施策についても連携して進めていくのは勿論でございますけれども、先ほど渋滞等のお話も出てきましたけれども、それをもつばら専門に施策・行政を進めていく部局があるのも事実なんです。

それで、都心の話がこれからでございますけれども、渋滞も勿論なんですけど、例えば今

日の新聞にのっていましたが、これは環境局がやっているんですが、クリーン配送システムで、それに関しては、商業関係者としてどういうふうに係わっていくのやという観点で議論が進められていくのかなあ、というふうに思っております。交通を規制したりなんかという警察・公安委員会の話になってしまいますので、大事な事なんですけれども、もう少しこの場で（実現可能な事）ということになるのかなあというふうな感じを受けております。

先ほど新山委員から製造小売という話が出まして、ああそういうことなんやなあ、やっこの部分では気づきました。例えば鞆の一澤帆布さんですか、ものすごい人気でお客様さんがばたくさんきてはります。遠いところから買いにきてはって。例えば仕入れて小売するというのも大事な事なんですけれども、京都の特長であります製造小売というのが一つの切り口なんかなあ。ただ個店の話になってまいりますので、いままでみたいにかたまりを助成していたのと違う。ちょっと今考え方を変えていただいておりますけれども。そういう変化も大切なんかなあと思って聞いています。本当にありがとうございました。これからも引き続きアドバイスいただきますよう、お願いいたします。

若林委員長 最初に申しあげましたように、これは中間報告（案）でございます。これはまずいのではないかなというご指摘はなくて、より充実させるということで皆さんいろいろご関心・ご感想を述べられて、新鮮な切り口を含めて学ばせていただきました。そういうことでございますので、勿論まだまだいろいろご意見があるかとは思いますが、それは最終報告（案）に向けてさらに出していただくということで、今日の策定委員会における中間報告（案）に関する意見交換は以上で終わらせていただきたいと思います。

今、申し上げましたように基本的な方向という点では、評価していただけたというふうに思います。ある意味で折角書いたんだから本当に頑張るのという期待の方を逆に感じるようなご発言もあったように思いますし、さらに私自身はこういうふうに思っているんですね。つまり、この中間報告でやっと思出しを出すことが出来た。それぞれの見出しをどう研究して、どう関係者のヒアリングとか意見交換とかをして施策にしていくのかというようなことに関しては、まだまだ勉強しなければいけない課題が多いと考えています。

そういう意味では、やっと思出しを見出しを打ち出すことが出来、その点は高く一定評価をいただけたということで、策定委員会の全体の合意した文書ということで中間報告をとりまとめさせていただく。それで公表もし、これから市民からの意見を募集する、というような進め方で進めてまいりたいと思っております。皆様方の組織・団体等でもこの中間報告（案）について議論をしていただく期間を是非つくっていただければ、私も調整いたしまして出来るだけそれを勉強させていただくように顔を出しに行きたいと思っております。そんなことを12月から1月にかけてやっていくということで進めてまいりたいと思っております。

しかもいつまで（仮称）が続くねんという話もあるかと思っております。このビジョンの名称につきましても、最終報告に向けていろいろご意見を伺っていったらというふうに思っております。

策定委員会は第3回目で終わりです。第3回の策定委員会の日程調整ということで日程

調整表も配られております。最後に大学コンソーシアム京都での調査研究のこと等についての進捗状況の報告を事務局の方から受けたいと思います。

事務局 それでは当日資料4の『京都市商業の未来像に関する調査研究について』について簡単にご説明をさせていただきます。この調査研究につきましては、7月に京都市内の大学に公募いたしまして、9月からスタートしております。テーマは左に書いております3点についてです。現在5つの大学、6つの研究室でこの資料に書いてありますような内容をご研究いただいております。商店街の活性化ということで、一つが京都造形芸術大学の中村先生の方が『寺町通りに関しまして文化遺産を切り口とした活性化』を研究されておられます。京都工芸繊維大学の阪田先生は『インターネットを用いたアンケート調査』でご研究をされておられます。龍谷大学の伊達先生につきましては『コミュニティビジネスを通じた商店街の活性化』ということでございます。佛教大学の関谷先生につきましてはインターンシップで大学生を商店街に派遣しましてそれで研究を進めておられます。『都心の賑わいづくり』に関しましては京都橘女子大学の井口先生が三条通でまちづくり協議会と連携をして調査研究を行っておられます。龍谷大学の井口先生が京都駅周辺の門前町の門前町指数というのを作成して研究をされておられます。また、一番下の商業分野での新たなビジネス展開につきましては、この部分に関する研究は実は専門ということではなかったんですが、三番目の伊達先生の方があわせてビジネス展開ということも発表していきたいというようなことをおっしゃっておられます。

こうした6つの研究テーマにつきまして来年の1月19日に時間場所等は未定なんです、大学コンソーシアム京都として発表会を行いたいということでございます。公開で開催される予定でございますので、委員の皆様におかれましては日程調整の上可能でしたら、ご出席いただきますようによろしくお願いいたします。以上です。

4 閉会

若林委員長 この件につきましてご質問・ご意見ございますでしょうか。大学コンソーシアムでの報告会もありますので、ぜひご参加下さるようよろしくお願いいたします。それでは、第2回の策定委員会を終了します。どうもありがとうございました。

事務局（西川） どうもありがとうございました。第3回の策定委員会の日程調整につきましては、日程調整表にご都合のいい日をマークしていただき事務局の方までご提出願いますようよろしくお願いいたします。